

小学校英語活動指導案の作成 ～体験的なコミュニケーション活動を取り入れて～

南風原町立南風原小学校教諭 新垣涼子

I テーマ設定の理由

国の動向

社会や経済のグローバル化が急速に進展する中で、世界の人々と共生し積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることの重要性はますます高まっている。

平成19年度中央教育審議会の答申をみると、小学校段階における外国語活動では、その活動を通して国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が求められている。つまり、これからの社会の変化に応じて子供が主体的に生きていくためには、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意志を表現し、調和を図りながら共に生きようとする、豊かな国際感覚の育成が求められていると言える。

管内の英語活動の取組

本研究所では、平成23年度より小学校5～6年で英語活動が必修化されることを受けて平成19年度より長期指定研究「小学校における英語活動の推進」の取組が始まった。第一回目である大城（平成19年度前期研究員）は管内全小学校に英語に関する実態調査をし、そこから具体的課題を明らかにし、校内体制作り、環境作り、授業作り等推進のための対策を立てそれをリーフレットにまとめた。仲村（平成19年度後期研究員）は管内の小学校英語活動年間計画を収集し分析を行った。その結果、管内の9割近い小学校で年間指導計画が作成され英語活動が進められていることが分かった。そして、指導する題材において、学年間の系統性がない等の課題をもとに、発達段階に応じた題材や活動などを系統づけ小学校3～6年の年間指導計画と35時間分の単元計画を「Exciting English Lessons」にまとめた。

指導案作成の必要性

そこで、本研究では、年次計画に沿った仲村の単元計画に基づいて、6年生の年間35時間分の活動案を作成する。作成に当たっては、英語によるコミュニケーション能力の素地の育成をめざして、コミュニケーションを楽しむ授業展開を工夫する。音声をたっぷりと聞かせ、音声に慣れてきてから表現を求めるなど児童から自然に発話できるようにする。学習形態は全体→グループ→個人というように変化のある繰り返して自信を持たせる。担任も積極的に授業に関わるように、学習の流れをパターン化する。さらにALTとの役割分担をはっきりさせたり、留意点を明記する等実用的な活動指導案にしていきたい。そのためにも授業実践を通して指導案を検証、工夫・改善を行う。最終的には小冊子にまとめ、管内小・中学校に資料提供したい。

II 目的と計画

1 目的

系統的、計画的な単元計画に基づいて、コミュニケーションを楽しむ活動を工夫をした小学校英語活動指導案を作成し、小冊子にまとめたものを管内小・中学校に配布する。

2 研究計画

- ① 「Exciting English Lessons」（年間指導計画、単元計画）に基づいた6年生の年間35時間分の英語活動指導案作成
- ② 授業実践を通して英語活動指導案を検証し、工夫・改善を行う。
- ③ 英語活動を盛り上げる楽しい教材・教具作り
- ④ 管内小・中学校への英語活動指導案配布

Ⅲ 研究内容

1 指導案作成の工夫

「Exciting English Lessons」(年間指導計画, 単元計画) に基づいた6年生の年間35時間分の活動指導案を作成するに当たって配慮したことを次の項から述べていく。

(1) 体験的コミュニケーション活動の重視

子ども達がコミュニケーションを楽しむ活動を取り入れるために「子どものコミュニケーションへの積極性を高める授業作りのポイント」(『指導と評価』2008年6月号) を参考にして指導案作りに生かした。

① 「目的意識」と自信を持たせる工夫

外国語活動を高学年で進めるに当たり, コミュニケーションの必然性があり, 子どももめあてをもって活動できるような工夫がいつそう必要となってくる。また, 活動で用いる言語材料についても, 子どもが自然に慣れ親しむことで, より自信をもって活動に参加することができるような工夫が必要である。

ア ねらいの明確化

活動のねらいが明確になるようにデモンストレーションにおいて下記の点を工夫する。

(ア) 子どもの興味・関心や生活に関わりの深い身近な場面設定を行う。

(イ) 活動場面にリアル感を出せるよう, 掲示物や具体物を活用する。

(ウ) 活動で用いる表現の発話だけでなく, 表情豊かにジェスチャーも使う。

(エ) 本時のねらいを設定し, 子どもに推測させ板書する。

(オ) 仲間の活動に着目することで個人の目的意識がもてるよう, 子どもも参加させる。

イ 慣れ親しませる活動の工夫

コミュニケーション活動で用いる言語材料やそれを使った表現に子どもが自然に慣れ親しむことができるように, ゲームやチャンツを活動に多く取り入れる。

② 「現実のコミュニケーション場面」を意識した活動の設定

子どもが活動を通して「実感」「関心・意欲」を得ることができるよう, コミュニケーションの場面と言葉の働きに留意して, 活動内容を構成することが重要である。とくに高学年は, 子どもが思いを主体的に発信することができるような場面設定が必要である。

ア 「自己決定・行動が可能な場面の設定」

コミュニケーション活動では, 必ず, 自分の気持ちや考えを伝え合う場面を設定する。

イ 「伝え合う実感がもてる活動の設定」

コミュニケーション活動を設定する場合, 自分の思いを伝え合う活動や友達とかかわり合いがもてる活動になるよう留意する。

(2) HRTとALT/JTEの役割分担をはっきりさせる

学習指導形態は学校によって「学級担任による単独授業」「T・Tによる授業」が行われている。どのような学習形態をとっていても, 子どもと共に「学ぶ」という気持ちを持って授業に臨んでほしい。ここでは「T・Tによる授業」形態を取り上げる。役割分担をはっきりさせることで指導者が主体的に授業へ関われるようにした。




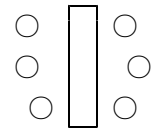
HRTの役割	ALT/JTEの役割
<ul style="list-style-type: none">・ 授業の進行をしながら全体の様子を把握する。・ 学習者のモデルになる。・ 今日の課題を明確にする。・ 個に応じた援助をする。・ 活動を広める, 認める, ほめる。・ 諸活動が楽しく, スムーズに行える学級作りにする。	<ul style="list-style-type: none">・ 英語で話しかけていき, Native English(英語特有のリズムや発音) をより多く聞かせる。・ HRT とのデモンストレーションを行う。・ その場に応じた言語や本時の言語材料を積極的に話す。・ 日本と外国との文化や習慣の違い等について触れる機会にする。・ 発音や表現に関わって, よい姿を見つけほめる。

(3) 活用しやすい指導案の構成

指導案の大まかな構成は表1のようになっている。「見やすく・わかりやすい」つまり「活用しやすい指導案」を頭において作成した。この指導案の特徴は

- ① HRTとALT/JTEの役割をはっきりさせるために欄を別に設けた。
- ② 活動の場面にふさわしいクラスルーム・イングリッシュを書き入れ太字にした。
(詳細は、(4) クラスルーム・イングリッシュ参照)
- ③ 子どもの活動がイメージできるように場の設定を図にして示した。
- ④ 自分の思いを伝え合う活動や友だちとの関わりあいがもてる活動を設定した。

表1 指導案の構成

授業の流れ	児童の活動	HRT	ALT・JTE	留意点・準備
1 単元名 2 ねらい	3 言語材料 4 教材・教具 (準備)	①		
ウォームアップ ◇ あいさつ ◇ 歌・ダンス等 ◇ ゲーム・チャンツ等 (復習)	How are you? ・あいさつや今日の日付・天気などを聞く ・前時のトピック文や単語の復習をする。 ・本時のめあてに関係のある歌やチャンツゲームをしたりする。			教材・教具
メイン活動 ◇めあての確かめ ◇新しい表現 会話の提示  ◇ゲーム・チャンツ スキット等 自然に発話できるまで待つ	・HRT, ALTまたはJTEのデモンストレーションで本日の表現を導入する。 ・音声中心 ・児童に英語をたっぷり聞かせる ・変化のある繰り返しの練習 ・学習形態の工夫 (全体→グループ→ペア→個人)		④ 	配慮事項を書く。 教師がイメージしやすいように場の設定を図で示す。 
振り返り ◇めあてについての相互評価 ◇あいさつ	・本時のまとめをする ・次時へのつなぎをする。 ・児童が振り返りカードを書く。 That's all for today.	②		③
5 評価	興味・関心、コミュニケーションの観点から書く。			

※チャンツ 一定のフレーズにリズムを乗せて発話する教材や指導法。楽しく繰り返しの練習ができる。(島尻教育研究所でも数枚保管。貸し出し可)

(4) 毎回の授業でよく使われる簡単なクラスルーム・イングリッシュ

あいさつや指示，質問，依頼，激励など英語の授業で使われる表現を「クラスルーム・イングリッシュ」という。クラスルーム・イングリッシュを使うことで英語学習の雰囲気作りをしたり，教師が繰り返し使うことで児童が一生懸命に英語を聞こうとする態度をひき出すことになる。子どもの視点で理解できるよう，ジェスチャーを使いながら表情豊かに英語を話すことが大切と考える。

表2は，1時間の授業の中でよく使われる英語を授業の流れにそってまとめたものである。形式化し繰り返し使うことで自然に英語が出てくるようになることをねらった。

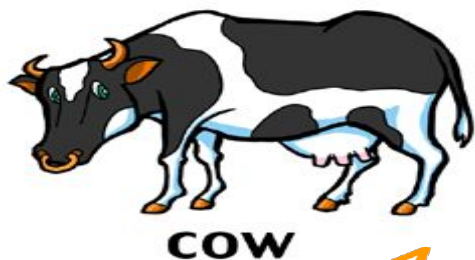
表2 よく使われるクラスルーム・イングリッシュ

授業の流れ	教師の支援	
ウォームアップ	Let's start our English class.	授業を始めましょう
Attention please	How are you?	元気ですか
Let's get started.	How is the weather today?	今日の天気はどうですか
I am (fine).	What day is it today?	今日は何曜日ですか
It's～	What is the date today?	今日は何日ですか
It's～	Let's sing a song.	歌をうたいましょう
It's～	Let's review.	復習をしましょう
トピック練習	Please watch our demonstration.	デモンストレーションを見てください
メイン活動	Let's practice.	練習しましょう
チャンツで練習	Any volunteers?	だれかやりたい人は?
	Raise your hands.	手を挙げてください
	Let's do the chant	チャンツをしましょう
ゲームをする	Now we play a game.	ゲームをしましょう
	Let's make pairs.	ペアになりましょう
	Make groups of ～	～人グループになりましょう
	Make ～lines.	～列になりましょう
	Great!	すばらしい
	Good job.	よくできました
	Time is up.	時間です
振り返り	You communicated very well.	とても上手にコミュニケーションできていました
	Your voice was very clear.	声ははっきり聞こえてよかったです
	You did a very good job.	とてもよくできました。
	Please write your report.	レポートを書いて下さい
	振り返りカードを書く	That's all for today.

(5) 教材・教具の工夫

英語活動を盛り上げる楽しい教具

教具の選択・作成で大切なことは、児童が興味・関心を持って活動に取り組めるかということ、その教材・教具を使用することで、学習目標を達成することができるかどうかという視点が重要である。生活に根ざした言葉を取り上げるので、日常生活で目にするいろいろなものが教材として利用することができる。



インターネットを使ってカードを作成。英単語を入れる場合には、文字を頼りに発話することがないないように注意が必要。



玩具屋で見つけたハンバーグとソフトクリーム。ファーストフードセット等いろいろ揃っている。



パソコンソフトを使って作成。単語を入力すると絵や絵に英単語が付いたカードが作れる。(研究所で貸し出し可)



一年生が持っている算数セットの中には お金や時計、色板など使える物がいろいろある。使わなくなった物を譲ってもらっておくと便利である。



粘土で作った手作りケーキ。
粘土の色も豊富にある。



百均で見つけたマグネットダーツ。
黒板に貼った的に向かって投げるとくっつく。

2 指導案例

3 授業実践と評価

「Exciting English Lessons」に基づいて指導案を作成し12回の授業を実践した。授業を振り返り改善すべき点は指導案を修正した。授業の評価は表3の通りである。学校の実態に合わないところは単語や表現を減らしたりして授業を行った。これから指導案を作成するときの参考にしてもらえたら幸いである。

表3 授業実践の評価

回	月/日	○良かった点 △改善点	留意点
1	4/15	○ウォームアップにABCソングを歌いながら簡単なゲームを取り入れたことで楽しくABCの復習ができた。	・歌は雰囲気作りやウォーミングアップとしてだけでなく、簡単な英語の表現に慣れ親しませることができる。発達段階に応じた歌を導入する。
2	5/1	△全員→グループ→ペアという繰り返しの練習が不十分で進んで発表できる児童が少なかった。	・英語をたくさん聞かせて自然に英語が出てくるのが良い。スパイラルにやっていくうちに身につけることが大事。
3	5/15	○中学校のALTが来校。児童が自分たちのわかる英語を使って一生懸命コミュニケーションしようとする姿が見られた。ALTに自分の国の話や使っているお金について実物を見せながら話してもらった。表現の難しいThirtyやthirteenの発音も聞き分けようと集中して聞いていた。	・ALTが来校時は生の英語をできるだけ聞かせること、英語を使って直接コミュニケーションを図る体験をさせることが大切である。
4	5/20	△1~100を英語で言うことは難しい。しかも、身近に体験したことのないオークションで素早く数をいうことはさらに困難である。	・数の言い方に慣れるまで20, 30, 40等、概数が言えればよいのではないだろうか。
5	5/27	○グループ活動では教師がどのグループにも支援できるように、立つ位置に配慮した。	・新出表現は単元の第一時から触れさせていると発話につながると思われる。
6	5/29	△買い物ゲームは一人ひとつの買い物なので時間が余った。	・ちょっとした時間で読める絵本やクイズなどの教材や教具を用意しておく時間を有効に使える。
7	6/10	○クイズやゲームをグループの得点制にしたのでとても盛り上がった。いつもはおとなしい女子も積極的に発表していた。	・掲示用の絵が細かい場合は一人ひとりに絵を印刷して配った方が良い。
8	6/17	△様子を表す言葉カードと動物カードをマッチさせることが難しかった。様子を表す言葉は本人の主観で決めることもあるので、誰もがマッチしていると思えるようなカードを選んでおく必要があった。(例 Is a chicken heavy?) △1時間の授業の中に二つのゲームは多かった。ゲームに慣れて楽しむ前に、次のゲームに移らなければいけなくなった。	・デモンストレーションは児童にとって身近な場面設定で行うと理解しやすいし、取組への積極性がちがう(例 ハンバーガーの big サイズ, small サイズ)
9	6/25	○チャンツを取り入れ単語や表現の練習がたっぷりができた。 △キーワードは身近な場面設定でわかり易くする。	・教師用カードは A 3サイズ以上で作ると教室のどこからでも見やすい。

10	7/1	○八つのグループに分けてゲームを行ったので一人ひとりが英語を使う場面がたくさん持てた。	
11	7/9	○単元計画にある活動を変えて指導案を作成。△チャンツがリズムに合っていなかった。事前にチェックをしっかりと行う。	・学習の目標となっている文が本来どのような場面で使われているのかを理解させることが大切なので、取り入れる活動は現実に起こり得る場面を設定する。
12	7/15	○朝食メニューを担当が全員分事前に準備するのに時間がかかったが、1時間の授業の中でスムーズに活動ができた。	・児童が間違った英語で発話した時は、間違いを指摘するのではなく、正しい言い方を提示することで正しい言い方に気づかせる。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 発達段階や活動などを系統づけた年間計画・単元計画「Exciting English Lessons」に基づいた年間35時間分の6年生の活動指導案を作成することができた。
- (2) 活動指導案に合わせた教具を作成することができた。
- (3) 6年生の年間35時間分の活動指導案作成、管内小・中学校へ資料を提供することができた。

2 研究の課題

〈研究の課題〉

- (1) 高学年の知的欲求を満たすための活動
- (2) 学級担任単独の授業の流し方
- (3) 小学校英語活動の評価のあり方

〈今後の課題〉

- (1) 活動指導案に学校や児童の実態に合わせて加筆修正を行う。

V 終わりに

英語に苦手意識のある私が、苦手なりに英語の授業に関われないものか、と思い立ってこの研究に取り組んできた。「誰にでもできる英語活動」という視点に立って指導案を作成し授業実践をしながら指導案の修正を重ねてきた。英語は「習うより慣れろ」とよくいわれる。その通りだとこの半年の研究で実感している。完璧な英語でなくとも、表情やジェスチャーで意思疎通（コミュニケーション）はできるのである。意思疎通（コミュニケーション）できる喜びを子どもたちに体験してもらうのが小学校英語活動の一番のねらいだと思う。『小学校学習指導要領』小学校英語活動の目標にある「コミュニケーションの能力の素地」がまさにこのことをいっているのではないか。今後も児童と一緒に「楽しく学ぶ」気持ちで英語活動を進めていきたいと思う。

この英語活動指導案は一例である。これをたたき台にして学校の実態、児童の実態にあった指導案へと作り替えて授業実践されたら幸いである。

〈主な参考文献〉

- 景浦攻・小学校英語セミナー委員会編 『小学校英語セミナー』
- 沖縄県教育庁義務教育課 『小学校英語活動指導資料・実践例「レインボープログラム」』 2004年
- 那覇市教育委員会 『研究開発実施報告書・第二次』 2005年
- 渡邊寛治（監） 『子どもが変わる！小学校英語活動』 高学年 2007年
- 那覇市教育委員会 『小学校英語活動年間計画』
- 岡秀夫 金森強 『小学校英語教育の進め方』 成美堂 2007年